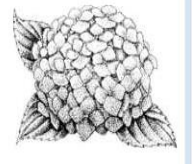




令和2年度 横浜市立生麦小学校

学校だより

横浜市鶴見区生麦4-1 5-1 学校長 沼田 留美子
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/namamugi/>



水無月(6月)

再開と仕切り直し

副校長 川又 宏之

春から夏に季節が変わるこの時期、校庭の周りの木々は、日ごとに緑が濃くなっていきます。学習や運動に適した5月、学校は臨時休業を続けてきました。子どもたちの声が聞こえない学校は、とても寂しいものです。この間、子どもたちの学習等、多くのことを見ていただきました。このたよりに読んでくださっている皆さまをはじめ、地域の方々にたくさんご協力いただきました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

4月6日の入学式、7日の始業式以来、登校日数で言えば35日後の学校再開です。教科の学習を進めるのはもちろんですが、年度当初は、学校や学級の約束を覚える、係活動の内容を考える、といった学級活動もあります。再開と同時に、そうした学校だからできる多様な活動を通し、子どもたちを育てていかなければなりません。わたしたち職員も、子どもが安心して登校できるように様々な活動を進めていきます。まさに仕切り直しです。仕切り直ししていく上で大切にしていきたいことを3つ記します。

①子どもたちのやる気を受け止める

新年度になりましたが、2年生以上の子にとっては3か月近く学校で授業を受けていない状況です。ましてや1年生は、小学校生活初めての授業となります。学びたい意欲があふれているのではないのでしょうか。学校再開のこの時期は、各担任と学校生活に必要なことを決めたり確かめたりしていきます。子どもたちのやる気を受け止めながら、一つ一つ丁寧に進めていきます。

②子どもたちの想いを受け止める

再開と同時にすべてのことが動き出すわけではありません。初めの2週間は1日おきの登校で午前中だけの授業です。また、給食は7月から始まります。ゆっくりとした学校生活ですが、慣れるのに時間がかかる子もいます。「友だちと会えてうれしかった。」という子もいれば、「今日は勉強があまり進まなくておもしろくなかった。」という子もいるかもしれません。そうした言葉に耳を傾け、「そうだったんだ。明日も楽しく遊べるといいね。」とか「初めだから少しずつ進めていくんじゃないの。」と受け止めて声をかけていただければありがたいです。

③子どもたちの安全を守る

久しぶりの登校となると、気持ちがうきうきすることでしょう。登下校時に周りへの注意がたりないときが出てくるかもしれません。大人が「車や自転車に気をつけるんだよ」と声をかけるだけで注意力がアップします。また、通学路を歩いているときに、見守りの方に声をかけていただくと安心感が増すとともに、周りに目を向けるようになります。学援隊をはじめとする地域のみなさまのご協力のもと、教職員も見守ってまいります。子どもの安全のためのお声がけに引き続きご協力をお願いします。

ここに挙げたのは、再開にあたってこうなって欲しいなという学校の願いです。願いで終わることなく、子どもたちのために一つ一つ実行していけるのが生麦小の地域であり、保護者であり、職員であることが心強い限りです。前のめりになり過ぎず、私たちの力を集めて、子どもたちの成長の手助けをしたいと考えています。今後も皆さまのご協力をよろしく願いいたします。